

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式					
M212P106		日常生活援助技術 (Nursing Skills for Daily Living)					基礎看護学							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
必修	2	2	医学部看護学科	前期	金3,金4,金5	日本語		複数(共同)						
担当教員	氏名 佐藤祐貴子, 清村紀子, 内川洋子, 佐藤佑佳, 廣田美咲, 原田千鶴(非常勤講師), 安藤敬子(福祉健康科学部) E-mail haraguti@oita-u.ac.jp 内線 5031													
授業の概要	本科目は、看護に共通する基本技術を基盤とし、科学的根拠に基づく、看護技術の原則を踏まえた日常生活援助技術について学ぶ。療養環境の整備や食事、排泄、活動、清潔など人間が健康な生活を営むために必要な活動を理解し、対象者/看護者役割を体験しながら安全・安楽の確保および自立に向けた看護技術の修得を目指す。													
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1 学習する看護技術の原則・根拠を説明できる。								○						
目標2 原則に沿って目的および根拠をもった看護技術が実施できる。								○						
目標3 看護技術の実施および対象者の役割の実施を通じて体験したことを述べられる。									○					
目標4 看護技術の実施体験から、看護者としての自己の課題に気づき言語化できる。														○
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度(計10)								4	4					2
授業の内容														
1 活動・運動援助技術①(基本的知識)														
2 活動・運動援助技術②(体位変換・ポジショニング)														
3 活動・運動援助技術③(移乗・移送)														
4 環境調整技術①(基本的知識)														
5 環境調整技術②(ベッドメイキング)														
6 環境調整技術③(リネン交換)														
7 環境調整技術④(リネン交換)														
8 環境調整技術⑤(実技チェック)														
9 清潔・衣生活援助技術①(基本的知識)														
10 清潔・衣生活援助技術②(寝衣交換)														
11 清潔・衣生活援助技術③(足浴)														
12 清潔・衣生活援助技術④(洗髪)														
13 清潔・衣生活援助技術⑤(洗髪)														
14 清潔・衣生活援助技術⑥(全身清拭)														
15 清潔・衣生活援助技術⑦(全身清拭)														
16 排泄援助技術①(基本的知識)														
17 排泄援助技術②(床上排泄)														
18 排泄援助技術③(おむつ交換)														
19 排泄援助技術④(陰部洗浄)														
20 食事援助技術①(基本的知識)														
21 食事援助技術②(食事摂取、口腔ケア)														
22 看護技術シミュレーション演習①(アセスメント)														
23 看護技術シミュレーション演習②(実技)														
24 苦痛の緩和・安楽確保の技術(冷電法・温電法)														
25 看護技術シミュレーション演習③(実技)														
26 看護技術探求学修①(グループワーク)														
27 看護技術シミュレーションテスト(実技テスト)														
28 看護技術シミュレーションテスト(実技テスト)														
29 看護技術探求学修②(プレゼンテーション)														
30 看護技術探求学修③(プレゼンテーション)														
ラ イ ク ニ テ ィ グ プ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造				○ A:リフレクションシート、概念化シート、調べ学修 ○ B:ディスカッション、プレゼンテーション、学びの省察 ○ C:実技シミュレーション、実技テスト				工 夫	・対象者/看護者役割の体験 ・実技テストに向けたエビデンスの探索、				

授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	テキスト該当範囲の熟読、テキスト内の動画の閲覧、事前学習課題への取り組み（毎回1h：計30h）											
	事後学修	授業内容の復習、看護技術の反復練習（毎回1h：計30h）											
	想定時間合計	60											
教科書	・茂野 香おる 他：基礎看護技術Ⅰ,第19版,医学書院,2023, ISBN 978-4-260-04992-4 ・任和子 他：基礎看護技術Ⅱ,第18版,医学書院,2021, ISBN 978-4-260-04212-3 ・竹尾恵子 監修：看護技術プラクティス第4版,学研メディカル秀潤社, 2019, ISBN 978-4780913231												
参考書	坪井良子他編：考える基礎看護技術Ⅰ 第3版,ヌーヴェルヒロカワ, 2005, ISBN 978-4902085099												
成績 評価 方法 及び 評価 割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10	
	期末テスト	50%	○	○	○								
	実技テスト	30%	○	○	○								
	プレゼンテーション	10%	○	○									
	学修成果物・貢献度	10%	○			○							
注意事項	＊授業前は、準備学修を必ず行ってくること。 ・清潔に留意し、服装・髪型・爪を整えてユニフォームとナースシューズを着用し参加すること。 ・防寒用のカーディガンは演習・実習で使用する専用のものを準備しておくこと。（ジャンパー、コート等不可）												
備考	科目の連絡や課題の提示、資料配布は、毎回Moodleを活用する。（各自で確認すること）												
リンク													
	URL												
担当教員の 実務経験の有無	○												
教員の実務 経験	看護師：佐藤祐貴子, 清村紀子, 安藤敬子 他 保健師：安藤敬子												
教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	○												
教員以外の 指導に関わる 実務経験者	看護師：原田千鶴												
実務経験を いかした教育内容	臨床での豊富な経験と、熟練の技術をもって原則に基づいた日常生活の援助技術について教授する。												